

ふるさとのお話

てんじんがわら
天神川原

狐の手まり



話してくれた人
おぎのしょうきち
荻野祥吉さん
(68歳)
平垣町

富士郡平垣村の松永家敷といえば
名代の豪邸で旗本領の地方代官の役
割をつとめていました。

山本幸七じいさんは、その松永家
敷の植木職人として働いていました。

ひとの子もわが子もトントントン

その晩はとりわけ月の光が明るく
照らしていました。

家路を急ぐ幸七じいさんが天神川
原の田んぼ道までさしかかると、何
やら足元にころがって来ました。

手にとってみると、やわらかな白
い毛をまるめた手まりです。

「こりゃ結構なものが……。下の子
供たちのおもちゃにもらっていこ。」

幸七じいさんには、上から下まで
6人の子供たちがいたのです。

さあ、下の子供たちは大喜び。
このまりは不思議によく跳ね、その



上コンコンと軽い音色を出すのです。

やがて、家中の者がぐつつり寝込
んだ真夜中のこと、誰かが雨戸をた
たく音が聞こえました。

「幸七じいさんコンバンワ。人間の
子もわが子もトントントン……。」

「いったい、こんな夜中に誰だろう。」
戸を開けると、外は月の光がます
ます美しく、その向こうに大きな白
狐が逃げて行くところでした。

翌朝、幸七じいさんは白い手まり
を、もとの場所にそっと返してやり
ました。それは田狐が子狐のために
自らの毛をぬいて作った、狐の手まり
だったのです。

市立博物館 展示物 紹介

ししまい
獅子舞



つづみ
獅子頭と鼓

うないふち
鵜無ヶ渚の獅子舞は、家内安全や
豊作などを祈って奉納されます。

この獅子舞は、さがり葉の舞・剣
の舞・幣の舞・狂いの舞の四つの舞
があり、そのうちの三つが村人によ
って、毎年奉納されます。



さがり葉の舞



剣の舞



幣の舞



狂いの舞



ガラスびんは、何度も利用するか、使い捨てるかによ
って、次のように分けられています。

リターナブルびん…使用済みのものを回収、洗浄して
繰り返して使うもので、ビール、牛乳、清酒びん等。

ワンウェイびん……一回しか使用しないもので、薬品、
化粧品、食料、調味料、洋酒等の大部分のびん。

このうち、リターナブルびんのように逆流通ルート
のあるびんは、なるべく酒類や清涼飲料の販売店で引
取ってもらう方が得策です。また、ワンウェイびんも
再資源化されますので、死びんとして分別収集に出し
てください。

—すすめよう ごみの減量・資源化—